



NPO法人 エンジェルサポートアソシエーション

定価 280円(税込)

1904P1000_13

シンプルな習慣から心♡が育つ。「伸びる子」の基本がてきる。

お父さん
お母さんのための

態度教育 ハンドブック



親子で取り組む
5つのしつけ



❀はじめに

子どもが生まれたとき、多くの親は我が子の将来をイメージして、「こんな子になってほしい」という期待を寄せて、名前をつけたことでしょう。はじめて名前を呼んだときのことを覚えていますか？

きっと、子どもの顔をしっかりと見て、

「〇〇ちゃん、私の子どもに生まれて来てくれてありがとう」と笑顔で呼びかけたでしょう。いつまでもその時の気持ちのまま、家庭で毎日関わるのができたら、どんなに素晴らしいことでしょう。

きっと相手を大切に思う気持ちが伝わり、思いやりの心が育ちます。これを「初心忘るべからず」というのでしょうか。

さて、その大切な子どもたちにとって幼稚園や保育園との出会いは社会との出会いです。この大切な幼児期にこそ、社会で生き抜く力（生きる力）を身につけなければなりません。

「しつけ」とは「礼儀作法をその人の身につくように教え込むこと」であり身を美しく（躰）とも表します。

これが人間としての基礎です。何事も基礎が一番大切です。便利で何もかも我慢せずすぐに手に入れられる時代です。

今の子どもは自分をコントロールする力（自律）が弱まっています。こんな時代だからこそ、意図的に「しつけ」を教育として保護者と先生が協力し取り組まなければなりません。保護者と先生がお手本です。

是非、家庭と園で協力し、「態度教育（しつけ教育）」について理解を深め、実践してください。コツコツとやり続けましょう。

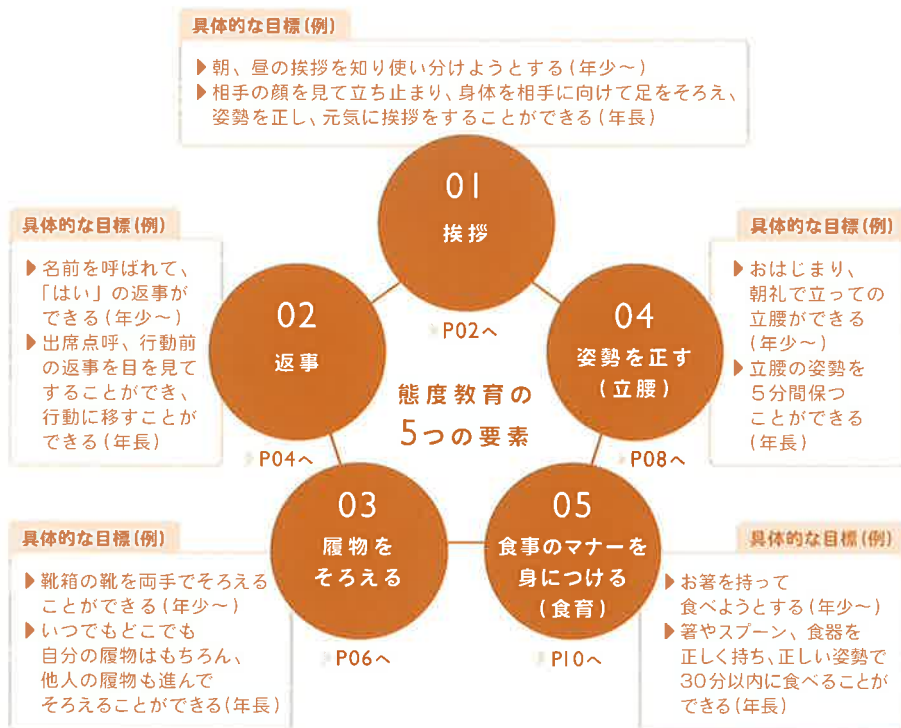
松井 直輝

態度教育とは？

保護者も先生も、「子どもたちが良い子に育って欲しい」と願う気持ちは同じです。世の中で良い子といわれるのは勉強だけができる子ではありません。良い子とは、明るく元気で、素直でまじめでやさしくて、一所懸命取り組む心の強い礼儀正しい子です。自分のことは自分で、みんなのことはみんなのできる生きる力のある「自律した人間」に育って欲しいのです。その基礎になるのが「態度教育」です。

態度教育とは「挨拶」「返事」「履物をそろえる」「姿勢を正す（立腰）」「食事のマナーを身につける（食育）」を体系的にまとめた教育です。これらを実践することで子どもの心がきたえられ、人としての基礎がしっかりと身につきます。

態度教育では実践の方法や目標がはっきりと決まっています。従来のしつけ教育と比べて、成果が子どもたちの様子にはっきりと表れることが特徴です。





01 挨拶

相手に心を開ける — 信頼の第一歩 —

「うちの子挨拶しないのよ」と嘆いているお母さんがよくいます。

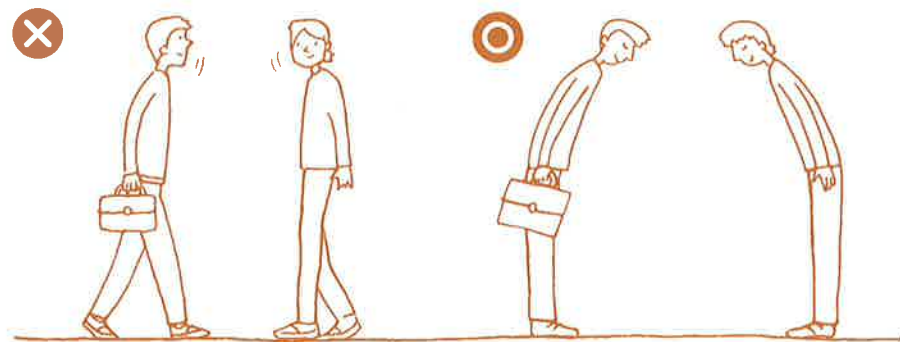
挨拶のしつけが身につけていないのですね。

では質問です。

お母さんは、お母さん自ら子どもに、そしてご主人に、お友達に挨拶していますか。

子どもは見ていますよ、お母さんの背中を。

挨拶は人と人をつなぐ黄金の絆です。信頼関係を築く第一歩なのです。



どこかに向かって急いでいる時、歩きながら顔だけむけて

「おはようございます」と言って会釈だけをして行く場合が大人の世界では時々あります。これは失礼です。

なぜなら心は目的地に向かっていて、そのついでに挨拶をしているからです。

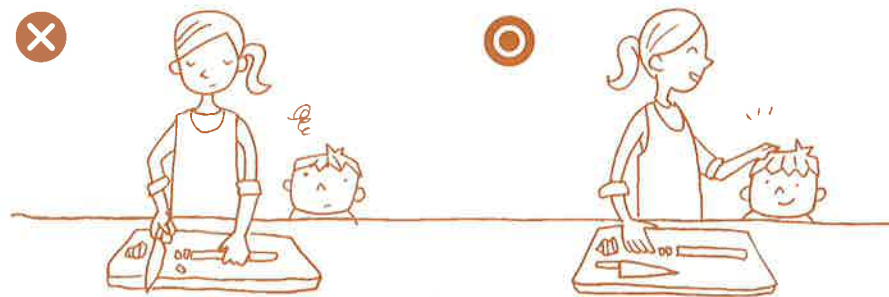
そうではなくて、いったん足を止めて、体をその人に向けて

「おはようございます」と言うと、心がこもっています。

その人に心が向いているからです。

↑ 家庭で気をつけたいこと

お母さんが料理をしているときに後ろから子どもに「ママー！」と呼ばれたとします。その時にネギを刻みながら「なにー？」と子どもと目を合わさなかったらどうでしょう？心はネギ、料理に注がれているわけですから、子どもは尊重されていません。手を止めて子どものほうを見て「なあに？」と言ってあげると子どもは認められたと思います。これが人と人との絆をつくり、信頼の第一歩となっていきます。大切なことは身体を子どもに向け、しゃがんで視線を合わせてコミュニケーションすることです。



子どもと目を合わさない。

子どもとしっかりと目を合わせる。体を向ける。

❀ 園での取り組み

子どもは自分から大きな声で挨拶をします。このとき、相手にきちんと気持ちを向けるように指導しています。気持ちを向ければ自然と手を止め、足を止め、相手に体を向けることになります。また、挨拶は語先後礼というやり方をしています。これは言葉を先に、礼は後にするやり方です。できたら、まず

- ① 立ち止り目と目を合わす
- ② 「おはようございます」という
- ③ 礼をする
- ④ また目と目を合わす

02 返事

心のコップを上に向ける — 尊敬の第一歩 —

お母さんが子どもの名前を呼びます。「○○ちゃん」。
その子どもの反応はどうでしょうか。



①と②の反応は態度が悪いと言われます。

これは「心のコップ」が上に向いていないのです。

ですからいくら親が良いことを伝えても子どもの心のコップには入りません。

反抗したり、すねたり、意地をはったりしているのです。

子どもは親の言うことを聞かないのです。

返事ができるということは、心のコップを上に向けることになり、

これからあなたの話を聞きますよという基本態度が身につくことになります。

人を大切にする、人を尊敬する第一歩です。

このような子どもは素直な子、私の取れた子に育ちます。

③はとりあえず返事をしていますが、どうせするなら元気に

「ハイ」と返事をしたほうが気持ちいいですね。

④の返事は「ラ」の音がいいですね。低い声では気持ちよくありません。

「ハイ」の返事で心のコップを上に向けましょう。



↑ 家庭で気をつけたいこと

お父さんは奥さんと呼ぶ時にきちんと名前で呼んでいますか？

「オイ」とか「早よせえよ」などと言うものだから

「なんやのん?!」という返事しか返ってこないのです。

冷たく接したら冷たく返ってくるのは当たり前です。

ただし、優しくといって奥さんをニックネームで呼ぶのは悪いことでは

ないのですが、子どもへのしつけの側面から考えると、

少々堅苦しくても奥さんの名前を呼んであげて、

「ハイ」という返事をしっかりと返してもらう姿を

子どもに見せることが大切です。

男性は偉そうにする必要はありません。

奥さんを敬う姿勢を見せ、

名前を呼んであげましょう。



❀ 園での取り組み



「ハイ」という気持ちの良い返事をします。

「ハ〜イ」ではなく「ハイッ」です。

「ハイ」は拝啓の『拝』

人を敬う気持ちが大切です。

相手の目を見て「ハイ」と返事ができるように指導しています。



03 履物をそろえる

ものと心のけじめ —けじめの第一歩—

履物をそろえるということは

「心と物のけじめをつける。しまりをつける」ことになります。

自分で自分を律するという点で、自制心と自律心が育ちます。

服を脱いだら脱ぎっぱなし。履物を脱いだら脱ぎっぱなしではしまりがありません。

これは「すさんだ心」の表れです。

すさんだ心とは自分勝手なわがままな考え方や態度です。

また、履物をそろえないのは物事の終わりを全うしない、しまりの悪い態度です。

けじめがついていません。物事の7～8割まではやるのですが、

しまりが悪いので、最後までやりきれない、ツメの甘い人間になってしまいます。

履物をそろえることは心を整えることに役立つのです。

ツメが甘いということは成功しないということになります。

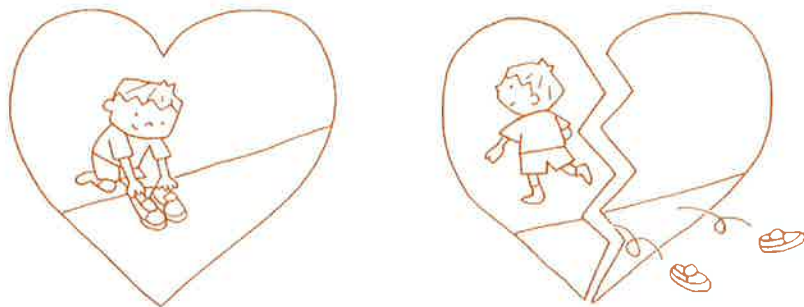
履物を揃えることによって、心を整え最後までやりきるこどもに育ちます。

履物指導のポイントはチェックすることです。できていればしっかりほめてあげます。

できていなければ、こどもを呼んで一緒に取り組みましょう。

まず見本を見せ、こどもにさせてみましょう。

やらせきるのが大切です。そしてしっかりほめてあげましょう。



🏠 家庭で気をつけたいこと

履物の整理は「次への準備」にもつながっています。

たとえばふきんでテーブルを拭いたとき、そのふきんを洗い、次にいつでも使えるようにしておくのがけじめのある仕事です。

これは自分勝手ではなく相手の立場に立つということです。



また、履物をそろえると心が締め、財布のヒモも締まると言われています。

つまり履物指導をすると、無駄遣いをしない子どもに育ちます。ご家庭でもぜひ実践してください。

🌸 園での取り組み

履物をそろえる大切なポイントは「両手を使う」ことです。

両手を使うことは心をこめることにつながります。

両手で丁寧に履物をそろえるよう、指導しています。

履物をそろえることで、

- ① 自制心と自律心
- ② 整理整頓と次への準備の習慣
- ③ 物事を丁寧に行う、ものを大切にす気持ちなどが身につきます。

04 姿勢を正す(立腰)

心と身体をコントロールする —人間の土台—

昨今、痛ましい親子の事件が跡を絶ちません。

親も子もキレる時代です。

このキレるということは「我慢」ができないということです。

反社会的行動（非行や自殺など）を引き起こす子どもの家庭を調べてみると、親が子どもに我慢を教えていないということが原因の第一に挙げられています。

食べ物に困らない、物にあふれた豊かな時代に我慢を教えることは至難の技です。しかし幼児期にこの我慢の基礎を教えないと将来大変なことになってしまいます。

そこで立腰（腰骨を立てること）を通して心と体をコントロールし、我慢できる心の強い子どもに育てましょう。

【動】を生かすには【静】を身につけないといけません。

人間の土台がこの立腰です。

↑ 家庭で気をつけたいこと

ちょっとの時間で結構ですので、右ページを参考にぜひご家庭でも実践してみてください。晩ごはんの前などがいいですよ。

その時、同時に祈ってあげるのはです。

「優しい子になりや」とか、「スポーツ頑張りや」とか。

どんなことでも構いません。

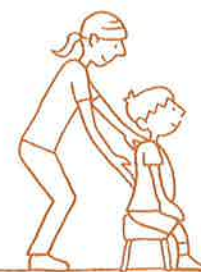
わが子を思う気持ちが子どもの心にきっと伝わります。

立腰の方法

- ① 椅子に座る子どもの後ろに立って、手のひらを背中に向け指先を下にして、背骨にそってすーっと下ろします。



- ② そして、おへその後ろを手の平全体でちょっと押してあげます。すると曲がっていた腰骨が、おなかをちょっと突き出すような感じで真っ直ぐに伸びます。



この形が一番いい姿勢、立腰です。

姿勢を正すということは、自分の体をコントロールする、心をコントロールすることです。

園での取り組み

毎日、朝の会で一人ひとりに立腰の指導をする時間をとっています。

また、保育が始まる前や終了したけじめのときに、立腰を行っています。

正しい姿勢がとれるように指導しています。姿勢を正すことで

- ① 意志力 ② 集中力 ③ 持続力 ④ 判断力 ⑤ けじめ などが身につきます。



05 食事のマナーを身につける(食育)

命への感謝 — 健康の土台 —

「いただきます」には2つの意味があります。

ひとつは「命」そのものをいただくことへの感謝。

命をいただくことによって私たち人間は
生かされていることを伝えないとけません。

もうひとつは「食べ物を作る」「運ぶ」「調理する」など、
食にかかわったすべての人たちへの感謝です。

食への感謝を中心に、何を食べるか、
いかに食べるかが大切です。

何を食べるかは食事です。

どうぞ和食を食べさせてあげてください。

特に朝ご飯は玄米とおみそ汁に納豆があれば最高です。

いかに食べるかは「しつけ」です。

食のしつけは相手に不快を与えない食べ方です。

相手のことを考えない食習慣は

こどもを鈍感にしていき、

自己中心的なこどもになってしまいます。

相手を思いやる優しいこどもに育てましょう。



🏠 家庭で気をつけたいこと

「食育」って知っていますか？

「食育」とは、いろいろな経験を通じて「食」に関する知識と

「食」を選ぶ力を身につけ、よりよい食生活ができる人を育てることです。

「まごわやさしい」食材をつかった食事がいいですね。それは、



これらをバランスよく摂取することが大切です。要はお惣菜がいいのです。

また、「これは『ひじき』といって海の中にあるのよ」とか、

「これは『切り干し大根』よ。大根は土の中で育つのよ」といった具合に、

会話の中で食に関する知識を与えてあげると、

子どもの食への興味・関心がどんどん高まります。

🍀 園での取り組み

食を中心とする前後のしつけも大切です。

前はトイレです。後は歯磨きです。

そして中心になる食のしつけもしっかり行っています。

箸の持ち方や手を合わせて「いただきます」などの挨拶です。

❀ おわりに

態度教育、どうでしたか？

「なんだ、たいしたことないじゃないか」

と思った人が多いのではないのでしょうか。

態度教育の一つひとつは特別なものではありません。

ほんの少しの時間でできることばかりです。

でも大事なことは、「毎日つづけられるかどうか」です。

そう考えると、「しんどいな〜」と思う人がいるかもしれません。

じゃあ、何かちょっと変えてみるというのはどうでしょうか？

子どもの目を見て話すとか、履物をそろえるとか。

目に見えることをちょっと変えることで気持ちが大きく変わってきます。

「ちょっと」は大きいのです。

ぜひご家庭でもできることから始めてみてください。

〈 保育現場 〉



〈 家庭 〉



生きる力を身につける

監修／松井 直輝

1962年大阪生まれ。学校法人泉新学園学園長。

国際TA協会公認の交流分析士として、教育分野では日本初の有資格者となる。

子育て支援のNPO法人 エンジェルサポートアソシエーションの代表を務める。

著書『幼稚園園長が書いた子育ての本』（ホンブロック刊）

『お父さんのための1日10分、本気の子育て』（幼年教育出版刊）など。

全国各地の幼稚園、保育園、企業等で多数講演。

協力／栗山 正樹

1952年宮城県生まれ。教育家。大正大学客員教授。

公文・ベネッセ・学研の教育3社にて、

新規事業や海外の高校ほか子育て施設の立ち上げに携わる。

現在は、株式会社栗山アソシエイツの代表として、

子育て現場の親・先生・経営者に対し、

環境づくり、人づくり、街づくりを指導、講演している。

NPO法人エンジェルサポートアソシエーションの理事も務める。